

# 会 議 録

会議名 (審議会等名)		平成29年度 川西市社会福祉審議会(第1回)	
事務局 (担当課)		健康福祉部 福祉推進室 福祉政策課	
開催日時		平成29年6月1日(木)	
開催場所		川西市役所 7階 大会議室	
出席者	委員	明石委員 川島委員 小田委員 橋田委員 多久和委員 安田委員 松尾委員 片峰委員 酒井委員 中井委員 五嶋委員 村瀬委員	
	その他	社会福祉協議会 荻本・佐藤	
	事務局	健康福祉部長 根津 福祉推進室長 岡本 福祉政策課長 上西 福祉政策課長補佐 曾我 ジャパンインターナショナル総合研究所 荒井	
傍聴の可否		可	傍聴者数 0人
傍聴の不可・一部不可の場合は、その理由			
会議次第		1. 開会 2. 自己紹介 3. 川西市地域福祉計画策定に係るアンケート調査について 4. 川西市地域福祉計画策定に係る今後の取り組みについて 5. 閉会	
会議結果		別紙のとおり	

## 審 議 経 過

司会

皆さん、こんにちは。定刻より少し早いですが、本日 12 名の委員さんのご出席を予定しておりますが、副会長の川島先生が 10 分余り遅れるということをお聞きしておりますので、只今より始めさせていただきたいと思っております。それでは平成 29 年度第 1 回川西市社会福祉審議会を開催させていただきます。本日はお忙しいところ、また遅い時間帯にも関わらず、ご出席賜りまして誠にありがとうございます。議事に入りますまで進行させていただきます、私、健康福祉部福祉推進室長の岡本と申します。どうぞよろしくお願いいたします。当審議会は委員 17 名で構成しており、本日出席が 12 名ということで半数を超えておりますので、今回は成立ということをご報告申し上げます。また川西市参画と協働のまちづくり推進条例第 10 条に基づきまして、会議の公開を行っており、会議録作成を迅速かつ正確に行うため審議会の様子を録音させていただいておりますので、ご了承賜りますようよろしくお願いいたします。それでは審議会開催にあたりまして、健康福祉部長の根津よりご挨拶を申し上げます。

部長

健康福祉部の根津でございます。本日は皆さんお忙しい中、審議会にご出席いただきありがとうございます。また本市の地域福祉の推進につきまして、日頃から貴重なご意見を賜っておりますことに厚くお礼申し上げます。さて本市の地域福祉計画は、平成 14 年度に策定いたしまして、およそ 15 年が経過しております。最初は 3 年ごとに見直しを行い、途中から 5 年に一度の見直しとさせていただいており、今年度が 5 年目の節目にあっております。皆さんのご協力を得まして、いい計画を策定していきたいと考えております。どうかよろしくお願いいたします。

司会

続きまして本日の資料の確認をさせていただきます。事前に送付させていただきました資料の会議次第 A 4 で 1 枚、それからアンケート調査票、アンケート結果報告書、年間スケジュール表 A 4 で 1 枚の 4 点を事前にお送りさせていただきました。それ以外に、机の上に本日の委員名簿と現行の第 4 期地域福祉計画の冊子を置かせていただいております。ご確認くださいまして、ないようでしたらお届けさせていただきますので、ご確認をお願いしたいと思います。揃っておりますでしょうか。ありがとうございます。現在任期中でありまして、委員のメンバーは変更がございません。ご紹介は時間の都合上割愛させていただきますので、名簿と名札でご確認いただきますよう、よろしくお願いいたします。なお、本日は委員の皆さんと事務局以外に、社会福祉協議会の職員およびこの地域福祉計画策定にご支援いただき、株式会社ジャパンインターナショナル総合研

<p>会長</p>	<p>究所の方にご参加いただいております。それではこれより議事進行は明石会長にお願いしたいと思います。明石会長、よろしくお願いいたします。</p> <p>どうも皆さんこんにちは。一日大変お疲れのところ、お時間いただきまして本当にありがとうございます。私もこの時間帯の審議会に出席するのは初めてで、なかなか珍しい時間帯だと思っておりますが、お時間を取っていただきまして本当にありがとうございます。予定は出来るだけ早く終わるようにしたいと思いますので、進行にご協力よろしくお願いしたいと思います。それでは次第に従いまして進めて参りたいと思います。議題が2番3番4番とございますが、まずは2番の「地域福祉計画策定に係るアンケート調査について」、事務局から説明をお願いいたします。</p>
<p>事務局</p>	<p>事務局から説明をさせていただきます。福祉政策課長の上西でございます。よろしく申し上げます。着座にて説明をさせていただきます。お手元の方に先ほど確認していただきました「川西市の地域福祉推進に係るアンケート」と、「川西市の地域福祉推進に関するアンケート結果報告書」という題で冊子になったものをご用意いただけますでしょうか。前回この社会福祉審議会につきましては2月14日に開催させていただきました。その時にご審議いただきましたアンケートの中身を見ていただいた上で、社会福祉協議会ともアンケートの中身を調整し、明石会長の方にもご了解いただき、3月13日にアンケートを発送しました。こちらがその最終形となっております。このアンケートの送付を元に、市民の皆さまから回答いただいた結果が、冊子としてのアンケート結果報告書になります。それでは報告書をご覧いただけますでしょうか。こちらは最終形ではございませんが、集計の数値等は確定しておりますので、本日はその結果を報告させていただきます。1ページ目に調査の概要を書かせていただいております。目的としまして、地域福祉計画の見直しにあたり、地域福祉に関する市民の思いや意見を明らかにし、計画策定の基礎資料とするということで、対象は18歳以上の市民3,000人に、無作為に郵送で送らせていただきました。回収につきましては1,116件、有効回収率が37.2%ということで、前回の5年前は34.5%ということで3%ほど向上しております。2ページ目をご覧いただけますでしょうか。【回答者や家族について】の項目でございます。回答者はやや高齢者が多く、60歳以上が半数を占めている状況です。全体的に女性の割合が高く、30歳代から50歳代では主婦層の回答が多く、80歳以上では女性の人口が多いことも考えられ、高齢者の回答が多くなっております。6ページ目をご覧いただけますでしょうか。【地域や福祉に関する意識について】です。『あなたやご家族は、近所の人とどの程度のつきあいをしていますか』という問ですが、近所づきあいの程</p>

度では、「あいさつ程度」がほぼ半数を占めており、最も多くなっております。次いで「立ち話や情報交換をする」という結果が続くのですが、これがほぼ全体の半分を占めている状態です。8ページ目をご覧ください。『問8あなたは、日常生活において不安はありますか』という問ですが、「不安がある」方は97.1%、「不安はない」という方が1.4%という状況となっております。日常生活の不安の内容については、全体では、自分や家族の健康、老後の生活や年金といった回答が多くなっております。10ページに年齢別にみた不安の内容を記載しております。年齢別にみますと、30歳代以下では今後の収入や子育て、40歳代50歳代では老後の生活や年金、60歳代以上では自分や家族の健康が多くなっております。年代ごとに不安の内容も明らかに異なっております。続きまして14ページ目をご覧ください。『地域のつながりが希薄化しているといわれていますが、地域のつながりについて、必要だと思われませんか』とあります。こちらの方は、「どちらかといえば必要だと思う」が55.8%と最も多くなっております。「とても必要だと思う」と合わせますと、8割以上が「必要だと思う」と回答されております。年齢別では、「とても必要だと思う」は高齢者ほど多くなっております。15ページ目で、「必要だと思う」「どちらかといえば必要だと思う」内容についてですが、「安否確認や見守りをしてほしい」が50.5%と特に多くなっており、次いで「自分や家族の話し相手や相談に乗ってほしい」となっております。続きまして17ページ目をご覧ください。【民生委員・児童委員について】です。民生委員・児童委員を「よく知っている」または「ある程度知っている」と答えた方は全体の4割となっており、「あまり知らない」「まったく知らない」という回答が多くなっている状況です。年齢別では、70歳以上では2割近くが「よく知っている」と回答されていますが、それより下の世代では「よく知っている」は1割以下となっております。続きまして18ページ目をご覧ください。『あなたは、地域の民生委員・児童委員に相談したことはありますか』という問に対しまして、「相談したことがあるのは全体の5%となっており、地域の民生委員の存在を知らないという方が3割を超えている結果となっております。続きまして19ページ目の【福祉の情報収集と相談窓口について】です。『福祉の相談窓口や福祉サービスなど十分な情報が入手できているかどうか』については、高齢の世代ほど「できている」が多く、若い世代ほど「できていない」が多くなっております。20ページ目です。「十分できている」「ある程度できている」と答えた方の情報の入手先については、「市の広報」「市役所」の次に「インターネット」が挙がっており、関係施設や関係機関より多くなっております。最近の情勢を反映していると思われま。21ページ目は前回調査と比較した、福祉情報の入手先について、前回調査とは質問形式が少し異なるのですが、情報の入

手先としては「地域包括支援センター」が大幅に増えており、センターの認知が進んでおります。また、福祉に関する相談窓口の範囲については、「市役所」という回答が半数を超えております。続きまして 25 ページをご覧くださいませでしょうか。【地域の福祉に関する活動などについて】ということで、『あなたは、「地域福祉」という言葉を知っていますか』という問について、「あまり知らない」が最も多くなっており、「まったく知らない」と合わせますと、約 6 割が「知らない」と回答されております。年齢別では、高齢の世代ほど認知度は高いですが、年齢が低くなると認知度も低くなっております。次に 26 ページ目の『「地域福祉」に関心がありますか』という問について、「とても関心がある」「ある程度関心がある」の合計は 5 割を超えており、「まったく関心が無い」が 8 % となっております。これも年齢が高くなるほど関心度が高いという状況です。27 ページ目の『あなたの地域では、福祉活動が活発に行われていると思いますか』の問について、「活発である」という回答は「活発ではない」という回答よりやや多くなっております。それ以上に「わからない」という回答が半数を超えており、地域の福祉活動についてあまりよく知らない方が多いことがうかがえます。特に若い世代については「わからない」が多くなっております。28 ページ目です。『あなたは地域の福祉活動に参加や協力をしていますか』という問について、何らかの参加をしている方が全体の約 2 割程度で、8 割の方は「参加・協力していない」と回答されております。また、「関心がない」という方は全体の 25% に留まっており、「関心がある」という方が多くなっております。続きまして 29 ページ目の性別・年齢別の集計です。年齢別では、ここでもやはり若い世代ほど関心がない方が多くなっております。30 ページ目です。福祉に関する活動の今後の意向については、現在活動している方は 1 割程度ですが、「現在はしていないが今後活動したい」という方は約 3 割ということで、潜在的には活動したいという方がまだまだおられるということがわかります。32 ページ目をご覧ください。今後活動したいと思う内容については、全体では「ひとり暮らしの高齢者などの安否確認や見守り活動、話し相手」が最も多くなっております。次の 33 ページ目の年齢別では、40 歳代以下の世代については、「子育て支援や相談相手」が最も多くなっております。続きまして 34 ページ目の『コミュニティや自治会、地区福祉委員会、ボランティア団体等で実施している福祉活動について参加したことがあるもの』について、最も多いのが「ふれあいサロン」の 6.3% となっております。次いで「食事会」「福祉講座・研修会」となっております。35 ページ目の『地区福祉委員会』について、「関心がある」という方は 3 割、「関心がない」という方は 6 割で、若い世代ほど関心がない方が多くなっております。続きまして 37 ページの【避難行動要支援者支援】の項目で、災害時における地域の安否確認の

制度について、知っている方は3割弱で、知らない方が多くなっております。これもやはり若い世代ほど知らない方が多くなっております。次の38ページ目では、この制度に「登録しようと思う」方は14.5%となっております。続きまして39ページ目【成年後見制度について】です。成年後見制度の利用意向については、「利用したい」方は36%、「わからない」方は4割程度となっております。これも前回調査との比較が下にありますが、「利用したい」という方はやや少なくなっております。続きまして43ページ目【総括的な質問・意見など】についてです。『あなたの地域の福祉に関する環境について』ということで、全体では「整っている」または「ある程度整っている」という回答が最も多いですが、その中でも最も多いのは[ 子どもがすこやかに育つ環境がある]で、次いで[ 子育てが安心してできる]、[ 居場所など交流する場所がある]と続いております。44、45ページをご覧ください。性別・年齢別にみた『地域の福祉に関する環境』ということで、[ 高齢者が生きがいを持ち、安心して暮らせる]では、29歳以下と80歳以上で「整っている」という回答が多くなっております。[ 障がい者が生きがいを持ち、安心して暮らせる]では、29歳以下と80歳以上を除く世代では「あまり整っていない」が「整っている」を上回っております。45ページ目の上[ 子育てが安心してできる]につきましては、29歳以下では「整っている」が多い一方、30代40代では「整っていない」が多くなっております。その下[ 子どもがすこやかに育つ環境がある]では、若い世代ほど「整っている」が多くなっております。46ページ目の[ 困ったときにすぐに相談できる][ 地域の人助け合いや協力がある]、47ページ目の[ 地域での福祉活動が活発である][ 居場所など交流する場所がある]につきましては、共通して言えるのが、男性より女性の方が「整っている」という回答が多くなっております。続きまして49ページ目をご覧ください。『市民が安心して暮らせるようにするため、必要と思われることは何ですか』という問について、「高齢者や障がい者が入所や利用できる施設の整備」が53.2%と最も多くなっております。次いで「災害時における避難所の整備や充実」「高齢者や障がい者が、在宅生活できるようなサービスの充実」についても半数以上が回答されております。この結果は、今回の調査では高齢者の回答が多かったということもありますが、子育て世代では子育て支援や保育サービスの回答が多いなど、世代によるバラつきもあります。50ページ目では『その他の回答』を、51ページ以降につきましては『自由意見』を記載しており、福祉全体についての自由意見の回答となっております。これは市民からいただいた意見をできるだけそのまま記入された内容を変えずに記載しており、基本的に生の意見がそのまま載った形となっております。全体を通しては、川西市の状況として次のことが言えると考えられます。地域福祉に関する関心や知識は

	<p>高齢世代ほど持っているということ、逆に若い世代の関心が低いことや、知られていない状況があるということもわかります。実際に活動に参加している方は1割程度に対し、参加してみたいと思っている方は3割ほどおられるということで、今後活性化する可能性はあるということです。若い世代においては、特に子育てに関する活動についての関心や活動意欲が高いということがわかります。また、地域福祉活動についての情報提供や周知、多世代を巻き込む活動づくりが今後も引き続き課題になってくると思われます。アンケート結果の報告については以上となります。</p>
会長	<p>事務局からアンケート結果の報告について、主要な部分について説明がございましたが、委員の皆さま方からご意見・ご質問等をお願いしたいと思いますがいかがでしょうか。説明がなかった部分についてもご意見がございませうか。</p>
委員	<p>先ほどの説明を聞いて、大変ご苦労をかけたなと思っておりますが、回収率が37.2%で、無作為に3,000人を対象にされ、その中にも自治会に入っている方、入っていない方がいらっしゃると思います。その影響もあり回収率が変わってきているのだと思いますが、そのような中で、21ページの設問17番、『情報収集をどうしていますか』という問ですが、前は「コミュニティ・自治会」「地区福祉委員会」とあり、今回は質問の仕方が変わったため省いたと言われましたが、前回2番目に回答が多かった自治会を省いた理由は何ですか。他の問では自治会に絡むような問もありますが、なぜここだけ「自治会・コミュニティ」を省いているのか、どのような理由で省いているのかがわかりません。なぜ今回だけ自治会とコミュニティを省いているのか、何か理由があるのですか。</p>
委員	<p>前回調査の項目をいくつか今回は省いてるようですが、前は「自治会・コミュニティ」が30%近くあるのになぜ今回だけ省いているのか、理由がわかりません。また、地区福祉委員や福祉施設など、福祉の情報で必要なものも省いてしまっているのは何か意味があるのですか。</p>
会長	<p>おっしゃる通りですね。</p>
事務局	<p>前回の部分を現在確認しておりますので、確認でき次第、後ほど回答させていただきます。</p>
副会長	<p>根本的な分析について、2点ご質問させていただきます。1点目は、川西市の地域福祉推進に関する調査報告について、推進してるかどうかとい</p>

	<p>うのは今の時点のみをみるだけではわからない訳ですから、以前と比べてどう進んだのかという所を分析しないとイケないと思います。今ざっと見せていただいて、前回調査と比較している項目がすごく少ないですが、これはなぜかということがまず1点お聞きしたいです。もう1点は、クロス集計をかけておられ、年齢別や男女別でどうだったのかと分析が続くのですが、10歳単位で年代を分けて分析を同じように続けてらっしゃるのはなぜなのかなという気がします。これだと年代別に、10歳単位で若い方が高齢者よりもこうとか高齢者の方がこうという結果はわかりますが、例えば1つの質問の中で、これを独居の高齢者の方が家族と暮らしていらっしゃる方よりもこう感じているとか、この地域にお住まいの方とこの地域にお住まいの方では意識が違うとか、クロス集計のやり方はもっといろいろあるはずだと思います。項目によって比較したいものは違うと思います。例えば、地域福祉の満足度が川西の中でも地域差により違うということであれば、その満足度が低い地域に力を入れないとイケないということが分析できると思います。全部男性・女性・10・20・30・40歳などの分析しかしてないのはなぜなのかという点をお聞かせいただけますか。</p>
事務局	<p>今回このアンケート調査をするにあたり、健康福祉部内でも計画をいくつか策定する予定があります。また、市長部局の中でも別の計画を策定するという事でいろんなアンケート調査を市民向けにしております。この地域福祉に関するアンケートをする時点で、参画と協働に関するものにつきましては、別の部署である参画と協働室がアンケートをすでに実施しており、重複する部分については今回省かせていただいたということで、一部その回答項目が異なっております。質問項目についても前回と全く同じものも考えたのですが、基本的な中身として少し見直しさせていただいた結果、今このような状態になっております。また、先ほど言われました、年齢や性別で画一的に分析をしておりますが、地域ごとの地域福祉の認知度等につきましても集計としては出せますので、設問に応じた集計を再度考えてまいります。以上です。</p>
副会長	<p>比較してなかったのはなぜか教えてほしいです。前回比較より少ないのはなぜですか。</p>
事務局	<p>前回との比較についても確認させていただきますので、後ほど回答させていただきます。</p>
会長	<p>他はいかがでしょうか。事務局の方で今点検していただいており、後ほどお答えいただけるということです。もし他にご質問がなければ、点検し</p>

<p>事務局</p>	<p>       ていただいている間、時間がもったいないので、先に議題の3番「今後の取り組みについて」説明していただいて、また2番に戻ろうと思うのですがいかがでしょうか。よろしいですか。それでは事務局から、次の3番「地域福祉計画改定に係る今後の取り組みについて」、先にご説明いただけますでしょうか。     </p> <p>       それでは本日机上に配布しております、「川西市地域福祉計画～連携と協働で、福祉をデザインするまち・かわにし～」ということで、現在の第4期地域福祉計画となっております。もう1つ、事前にご確認していただいております「地域福祉計画改定に係る年間スケジュール表(案)」ということで、平成29年5月25日時点のスケジュールの資料をお出しいただけますでしょうか。再度説明をさせていただきます。本市では、平成14年度に川西市地域福祉計画を策定して以来、現在、平成25年度から平成29年度までを計画期間としており、この第4期川西市地域福祉計画に基づき、地域福祉を推進しております。本年が最終年にあたることから、第5期川西市地域福祉計画を今年度中に策定する必要がございます。策定にあたりましては、この社会福祉審議会で皆さまのご意見を頂戴しながら、策定をさせていただきたいと思っておりますのでよろしくお願いたします。先ほどご説明させていただきました、川西市地域福祉推進に関するアンケートと、先ほどご説明しました、市が別途実施しております、川西市参画と協働のまちづくりに関する市民アンケート等も同じ時期に実施しておりますので、その結果を踏まえ、必要な情報を収集しながら、報告書および計画素案を作成していきたいと考えております。計画の中身については、生活困窮者自立支援制度や子どもの貧困対策、成年後見支援制度、また自殺対策等の法律や、制度上必要とされる内容も盛り込んでまいります。また、国でも掲げております、地域共生社会の実現に向けた指針や施策の動向を盛り込んだ計画として、この社会福祉審議会におけるご意見に基づきながら、修正・追加等の作業を行っていきたいと考えております。策定のスケジュールが先ほど見ていただきましたA4の資料になります。策定のスケジュールといたしましては、上から順番に5月から4月までのカレンダーとなっており、それぞれ上旬・中旬・下旬と記載をしております。1番左側に議員協議会という欄がありますが、11月頃に議会に説明させていただいて、その後12月頃にパブリックコメントということで、広く市民からご意見をいただく予定です。この部分に合わせまして、社会福祉審議会が計画策定を進めるようなスケジュールを組んでおります。社会福祉審議会の横の欄を見ていただきますと、6月上旬に本日6月1日として行程等の報告ということになっております。この審議会につきましては、今の所7月下旬に2回目、10月下旬に3回目、年が変わって2月の中旬に最終報告     </p>
------------	--

ということで、スケジュールを組ませていただいております。裏面では開催予定ということで、協議事項を書かせていただいております。これはあくまで案ですので、中身については変動することがありますのでご承知おきください。この審議会でご審議いただくにあたっては、アンケートをもとに計画等を策定していく必要があり、現在アンケートの分析をしており、さらにこの内容をよりわかりやすいものに改定していきたいと考えております。それを元に、計画の骨子を検討させていただき、計画素案を検討・作成、なおかつ福祉政策課だけではなく関連する部署へのヒアリング等も計画内容の摺り合わせをしながら、詰めていきたいと考えております。10月には計画案を作成させていただき、もう一度審議会でご意見を賜ることを考えており、その後計画案を修正した後に、議会にご報告するという予定で考えております。その右側ですが、計画の策定にあたりましては、地区別ワークショップや市民フォーラムを9月中に実施したいと考えております。早い地区であれば、今月下旬からワークショップを実施していきたいと考えており、地域においても地区福祉計画の改定年でもあります。地区ごとにワークショップを実施していきます、という話を各地域にすでにさせていただいておりますので、その中で市民の貴重な意見をお聞きしながら、計画を策定していく予定です。もちろんその中では、現在実施しております計画の課題や問題点等もいろいろと出てくると思いますので、いただいたご意見を整理しながら、9月頃までに計画案の作成を同時並行で行う予定です。もう1つ、市民フォーラムということで、現在、9月下旬に文化会館でフォーラムを開催できるよう、関係機関と調整しております。ここでは一般市民を含めていろんなご意見をお聞きし、計画に反映できればと考えております。最初にみていただきました現在の地域福祉計画について、この計画の中身をどうするのかということも含めまして、皆さんにご検討いただきたいと考えております。例えば4ページ目に計画の基本目標がございます。(1)として、『市民主体の「福祉デザインひろば」づくり』、『(2)協働で推進する地域福祉の基盤づくり』、『(3)利用者の自立を支える福祉のまちづくり』という基本目標を掲げておりますので、この項目についても、拡充するのか、また改定するのも含めまして検討していきたいと考えております。その中でも、地区別ワークショップ等でもいろんなご意見を賜りたいと考えております。事務局からの説明は以上です。

会長

どうもありがとうございました。年間スケジュール案についてご説明ございましたが、この件につきまして、ご意見・ご質問がございましたらお願いしたいと思います。ワークショップはもう間もなく始まるようですが、地域での調整状況はどうなのでしょう。

事務局	<p>基本的には、既存の福祉ネットワーク会議というものが地域ごとにございますので、その会を利用してワークショップを実施する予定です。現在日程が 14 地区のうち約半数程は決まっておりますが、残りはまだ調整中でございます。</p>
委員	<p>ワークショップする時の資料というのは、本日我々に説明している資料になるのですか。</p>
事務局	<p>ワークショップでは別の資料を考えております。まだ中身については現在検討している段階でございますので、まずはワークショップをするということについてご了承いただきたいと考えております。</p>
委員	<p>出来れば知りたいです。我々の知らないところで違う資料で実施されたら、状況がわかりません。</p>
会長	<p>その点はどのようなのでしょうか。</p>
事務局	<p>本日はご用意出来ておりませんが、ワークショップの内容が固まりましたら、また郵送でお知らせをさせていただきたいと思っております。</p>
会長	<p>社会福祉協議会と歩調を揃えてやられますので、社協の会長さんにもご説明いただければいいのかなと思っておりますし、地域の皆さま方にも周知していただけたらと思っております。他はいかがでしょうか。</p>
委員	<p>アンケートの分析は、結果報告書を元に市の方でされるのですか。課題をここから出すのですか。</p>
事務局	<p>そうです。</p>
委員	<p>社協はその作業の中に入らないのですか。アンケートの分析についての話し合いはもうこれで終わりなののでしょうか。ここからの課題抽出はこれからなののでしょうか。</p>
事務局	<p>この内容につきましては、社会福祉協議会さん等にも中身を見ていただきまして、今のところこれで良いということで、結果をお示しさせていただいております。本日ご意見をいくつかいただいており、これが最終形ではございませんので、また修正はさせていただきます。</p>

<p>会長</p>	<p>副会長からのご指摘の通り、分析のやり方をもう少し深く、項目ごとに再検討していただく必要があると思います。クロス集計については、特にワークショップとも重なってくると思います。地区別に比較することによって、例えば駅の近くは高齢化率が低いので、別の高齢化率が40%超える地区とでは随分ご意見が変わってくると思いますので、ワークショップ等とも関連して分析が必要ではないかと思います。それについては、また社協さんとも調整していただいて、どのような分析・クロス集計が必要なのか、もう一度再考していただく方が良いと思います。あまり時間はないですが。</p>
<p>事務局</p>	<p>貴重なご意見をいただいておりますので、関係機関と連携しながら一緒に作成していきたいと考えております。</p>
<p>会長</p>	<p>もう1点、前回との比較が少ないですが、その点も考慮していただく必要もあると思います。スケジュール案についてはこれでよろしいでしょうか。それでは先ほどの案件に戻って、委員からご指摘がありました、福祉情報をどこで手に入れているかという間で、コミュニティと自治会が抜けている点についてです。以前この場でご審議いただいたアンケート調査票でも当然抜けている訳ですが、その経緯はどのようなのでしょうか。</p>
<p>事務局</p>	<p>福祉政策課の足立です。アンケート結果の12ページの質問の10番『あなたはふだん困ったときに、どこに相談しますか』になります。その相談窓口として「コミュニティ・自治会」を入れさせていただいております。また、20ページの問17の情報の入手先について、「コミュニティ・自治会」を「地域の相談窓口」と一本化しており、地域全体の相談場所としてまとめてしまった経緯があります。それともう一つ、まだ公表はしておりませんが、参画と協働のまちづくりのアンケートにおいて、「自治会・コミュニティの活動に参加しているか」という問がございましたので、重複を避けるために削った経緯があります。</p>
<p>会長</p>	<p>ありがとうございます。12ページの問10『どこに相談しますか』という問に「コミュニティ・自治会役員」、「民生委員・児童委員」が入っているようです。それから、20ページの問17で、前回の「コミュニティ・自治会」を「地域の相談窓口」ということで一本化したという状況です。</p>
<p>委員</p>	<p>少しは理解できますが、だからといって自治会やコミュニティを省く理由にはならないと思います。今の説明を聞くだけでは、明確な理由として</p>

考えられません。他の質問をみると、問 24 の「参加や協力したことがある」内容として、「自治会・コミュニティの福祉活動」が 70%近くとなっています。福祉活動というものは、コミュニティがしっかりと動く、そのような土台になっている訳です。しかしその重要な選択肢が抜けているというのは理解しにくいです。前回のこの審議会で、アンケートについていろんな意見が出て、最終的には審査会を開かずにアンケートを実施されています。前回の審議会の際に、「これすんません、時間・日にちがないのでやらせてください」と、担当者が個別にお願いに回ってほしいと言いましたが、結局出来なかったということですね。そのために今、このような状況になっていますが、あの時は「もう時間がないのでアンケートを取らせてほしい」ということでした。まったく理解できません。

会長 今、委員がおっしゃっているこの問だけが「コミュニティ・自治会」が抜けていて、他の問ではそのまま生きており、29 ページの問 24 でも「コミュニティの福祉活動」がしっかりと意見として出ています。

委員 今、安田委員さんが指摘された問題は地域福祉の基本的なことで、入っていなかったことについて、今さら犯人探しをしても仕方がないですが、事務局としても反省していただきたいと思います。それと関連して、平成 12 年に社会福祉事業法が社会福祉法となって、「社会福祉は地域福祉である」と第一条に規定され、地域福祉の重要性が示されたことを改めて考えないといけないと思います。それ以後、川西市でも国や県の動向を受けて、自主的に計画を作ってきました。それは非常に大切なことだと思いますが、先ほどこれからの社会福祉審議会での検討事項として、現行計画の 4 ページに「4 . 計画の基本目標」が 3 つ挙げられています。これについては確かにこの通りだと思いますが、今から 17 年前と今日との違いを、本日ご説明いただいたアンケート結果を思い起こしながら考えてみますと、家族の危機あるいは家族の破綻というものが、川西市でも非常に目立ってきています。それをきちっと把握した上で、地域福祉とは一体何なのか、前回も申し上げましたが、地域とは何なのか、コミュニティとは何なのか、議論していく必要があると思います。とりわけ少子高齢化や、川西市独自の問題としていわゆる南北問題、また一人暮らしの方も増えてきており、この傾向は変わっていません。ご夫婦だけという所帯も増えてきており、もしどちらかが亡くなれば、一人暮らしになる訳で、そのような 17 年間の変化をしっかりと噛み締めながら、計画に盛り込んでいく必要があると思います。少し理屈っぽくなるかも知れませんが、1968 年のイギリスのシーボーム報告、これが地域福祉あるいは地域ケア、コミュニティケアの原点だといわれております。確かにその通りだともいえますが、シーボー

	<p>ム報告の 475 項には「コミュニティは社会福祉サービスの受け手ではあるが、同時に送り手でもある」という有名な文句があります。コミュニティは、ただしてもらえばかりではなくて、送り手にもなり得るという、積極的な考え方がにじみ出ていないといけません。ただ、そのようなシーボーム報告あるいはそれ以後のイギリスの関連するドキュメントをみても、一体何のための地域ケアなのか、あるいは日本的に言えば地域福祉なのかということについて、その原点が忘れられています。地域に関係する人々のネットワークやチームワーク、行政支援のあり方、社協の組織などが優先されています。結局、基本目標 3 の『利用者の自立を支える福祉のまちづくり』、これが次第に弱まっているにも関わらず、いつの間にか地域福祉のための地域福祉に、近年では国もそのような言い方をしていますし、県や市町村でもそうなっています。その上で、私どもとしては原点に立ち返って話し合っていく必要があると思いますので、安田委員さんのご意見に関連して、少し問題提起しておきます。</p>
<p>会長</p>	<p>ありがとうございます。非常に大事なご指摘をいただきましたが、安田委員さんと小田委員さんのご発言に対して、事務局から何かございますでしょうか。</p>
<p>事務局</p>	<p>貴重なご意見として、地域福祉の成り立ちということを改めてお聞かせいただき、ありがとうございます。今回お示しした内容につきまして、安田委員が言われました前回との比較について少し疑問に思われた部分や、事務局の説明に納得いただけなかったということで、事務局側の不手際であったと痛感しております。申し訳ございません。再度調整しながら、誰が見てもわかるような報告書にしたいと思います。また、調整や変更できる部分についても、再度、事務局で考えていきたいと思いますので、よろしく願いいたします。</p>
<p>副会長</p>	<p>スケジュール表で確認したいことがあるのですが、ワークショップは 7 月から 8 月にかけて実施なさるとのことですが、素案の作成は 7 月からとなっており、ワークショップからのご意見の反映は間に合うのでしょうか。形だけのアリバイ作りではダメだと思います。ワークショップの中で出されたご意見を素案に盛り込むというスケジュールは真っ当だとは思いますが、このスケジュールのずれについてご説明いただけますでしょうか。</p>
<p>事務局</p>	<p>本来ならば全てのワークショップを実施した後に素案を作成するのですが、全部の地域が終わってからだと、スケジュールに無理が出てしまい</p>

	<p>ます。同時並行ということで、基本的にワークショップについては 14 地区で実施するということをお話させていただきましたが、半数以上の地区でご意見を聞いた上で、計画素案の作成を始めさせていただきます。同時並行ということですので、修正を随時しながら素案を作成していくというスケジュールを入れております。矢印が長く伸びて、時間がかかっているように見えますが、それぞれの地区のワークショップが終われば、その都度意見を整理しながら素案に盛り込んでまいります。以上です。</p>
<p>会長</p>	<p>よろしいでしょうか。確か前回は、このアンケート調査結果、そして全地域のワークショップからのご意見を全部整理・統合して課題を抽出し、反映したと思いますが、そのやり方と同じですね。この書き方では少し疑問が残るような形ですが、ワークショップでのいろんなご意見からもエッセンスを抽出していくという、そのような手続きについて変わりはないのですね。</p>
<p>事務局</p>	<p>はい、今会長が言われた通りでございます。地域福祉計画の 27 ページをご覧くださいませでしょうか。前回実施した時の状況を記載しております。市民アンケートでは今回と同様に 3,000 人を無作為抽出し、郵送しております。その後、地区別ワークショップについては、1 番早い地区で 7 月から始まり、9 月下旬までずっと実施しているという状況です。その後、分野別のワークショップをさせていただきながら、11 月に市民フォーラムをさせていただいており、その時も合わせて素案づくりと並行して進めたという状況ですので、今回も同様な形で実施したいと考えております。</p>
<p>委員</p>	<p>12 月にパブリックコメントがありますが、その材料となるものは、審議会が計画案を審議した後の計画案に対してのパブリックコメントになる訳ですね。そのパブリックコメントの意見は反映されるのですか。前回の結果をみると、前は 5 件だったようで、その意見をどのようにされるのかな、と思います。確認しますが、修正した計画案を元にパブリックコメントをするのですか。</p>
<p>事務局</p>	<p>先ほど見ていただきました年間スケジュール表に、その部分について少し書いておりますので、ご覧いただければと思います。12 月にパブリックコメントを実施し、今回意見がどれだけ出てくるかわかりませんが、出たご意見については整理・集約した後に計画案を修正します。その上で議会にも報告し、最終の審議会でご審議いただき、計画書を 3 月下旬には作れるように考えております。もちろんパブリックコメントでいただいたご意見も集約し、計画に反映させていただきます。以上です。</p>

<p>会長</p>	<p>ありがとうございます。パブリックコメントのご意見については4回目の審議会で最終報告していただき、必要であれば審議するという手順ですね。ありがとうございます。他はいかがでしょうか。議題の順序が逆になりましたが、さらにご意見・ご質問はございますでしょうか。よろしいでしょうか。五嶋委員さん何かございますでしょうか。もしございましたら遠慮なくおっしゃっていただければ結構です。</p>
<p>委員</p>	<p>1つよろしいですか。コープこうべの五嶋と申します。昨日、このような事例が川西市の東谷にありました。うちでは毎週1回トラックを使って商品を配達している事業をさせていただいており、先週届けたお荷物がそのまま玄関の前にあるということで配達員から連絡が入りました。急遽私が現地に向かいましたが、玄関は全て閉まっており、どこも開かない状態でした。近所の3軒位にお尋ねしましたが、80歳ぐらいの一人暮らしの方ではないかという情報しか得られず、どうしようもないということで110番したところ、パトカー1台、救急車2台、消防車2台がけたたましい音で現地に来られました。呼んだ方も躊躇しましたが、その音を聞いて近隣の家から出て来られた方の中に民生委員さんがおられまして、「その人入院してるよ」という一言があり、それが実態かなとつくづく感じました。また、どなたが民生委員をされているかということも玄関には表示がないので、どこに尋ねていいのかもわからないというのが実態です。民生委員さんが出て来られて、この地域の担当の民生委員さんまでは辿りつくのですが、入院されている方に連絡がつかず、民生委員さんが持っている資料ではご息がおられるという情報だけで連絡先もわからず、2時間現地で右往左往しました。警察が病院を探し続けて、救急車の履歴を見て、3時間後ぐらいに入院先がわかったというのが実態です。このように民間と社会福祉協議会などが連携する機会があるとすごくいいのかなと、我々の方が多分、市民の声に近いのかなということもありますので、もう少しアンケート結果を掘り下げることが必要だと思います。先ほどアンケートの分析を説明されましたが、「活動している、していない」ぐらいで、「この先どのようなことをしていけばいいのか」まで掘り下げてからワークショップをしないと、意見の出し合いだけになるのかなと少し感じました。</p>
<p>会長</p>	<p>ありがとうございます。非常に貴重な報告だったと思いますが、今後ますますそのような事例が増えていくのでしょうか。特に川西市でも、80代90代の一人暮らしの女性、ご主人さんが亡くなりますとほとんどが高齢の女性一人というケースが増えていくのではないかなと思います。豊中市では鍵預かり事業などがあり、緊急時の対応はどこに言えばいいのかわ</p>

からないなど、なかなか危機の情報が一元化しないということで、豊中市では「まず社協に言ってください」ということで、連絡先を社協に一元化されています。社協で情報の交通整理をされていますので、そのような方策や今のご意見、他の事例も含めて念頭に置きながら、ワークショップをしないといけないというご指摘でした。ありがとうございます。他にはいかがでしょうか。いただいた案件は終わりましたが、「4 その他」で何かございますでしょうか。橋田委員さんから少しご報告をしていただけるとお聞きしています。出来れば時間的な都合もございますので、10分位でご報告いただければと思います。よろしくをお願いします。

委員

はい、よろしくをお願いします。宝塚 NPO センターの橋田と申します。よろしくお願ひいたします。NPO センターの活動というのは、主に市民協働と就労支援があります。今回、福祉ということですので、福祉としてどのようなことをしているのかと伺いますと、1つは、2年前に法律が出来ました、生活困窮者自立相談支援事業をやっております。私たちはその就労支援を行っております。就労準備支援もやっており、「生活応援センター」と「はたらく応援センター」と分けております。「生活応援センター」を宝塚の社会福祉協議会がやっており、その中で「はたらく応援センター」を私たちがやっており、社会福祉協議会と NPO センターが一緒になってやっています。とてもいい事業だと思っており、福祉と雇用が1つになったことと、窓口が一本化されていること、どこかにたらい回しにされないことがない、どんな相談でも受け付けるという、社協がやっている生活応援センターの部分です。私たちは、やってとても良かったな、うまく一緒に推進できたなというところがあります。それが1つです。もう1つは、ご報告として今年から引きこもり支援センターというものが兵庫県に5、6か所あり、その中に阪神ランチというものがあります。本日チラシを持ってきましたので、是非お持ち帰りいただきたいです。「引きこもり・不登校・いじめなどに悩むあなたへ」というところですが、引きこもり支援センターというものが県内に5か所あります。チラシの裏の阪神ランチを今年の4月から宝塚 NPO センターでやることになりました。他は但馬、篠山、淡路、姫路で、神戸は神戸市がやっております。もし皆さんのお住まいの地域で、引きこもっているんじゃないかなという方を見かけたら、こちらにご相談いただければと思います。こちらに電話番号があります。これは今年からすることになりました。年2回、9月や3月頃に大きな相談会や周知のための講演会を実施することになっております。それからもう1つ、宝塚市が秋田市に続いて、「エイジフレンドリーシティ宣言」をされたというのはご存じでしょうか。市民でも知らない方が多いのですが、去年私たちは、エイジフレンドリーシティの計画策定委員会の事務局をや

らせていただき、今年から実際の計画が始まっています。これは市の地域福祉の方が担当されています。今年は委託を請けていないのですが、いわゆるハード部分とそれからソフト部分、ハードというと公園のベンチをどうこうするなど、私たちは委託を請けていませんがソフト部分をやっていきたいと思います。高齢者が元気であるためには、やっぱり仕事など何かやる必要があります。元気で、そして支えられるのではなく、支える側に回ってもらおうということで、仕事づくりや何か地域活動に出て行ってもらおうようなことが出来ないかなと考えています。そのためには、先ほどコープ神戸さんからのお話もありましたが、私たちだけというより、民間企業さんなどと連携していきたいと思っております。それともう一つ、自治会の事務局や会計、まちづくり協議会などのホームページ作成やブログなども、市民協働推進関係からの委託で進めているところもあります。簡単ですが、時間も限られてますのでこれで終了させていただきます。ありがとうございました。

会長

どうもありがとうございました。もっとお話をお聞きしたいと思いますが、社協と労働関係が引っ付くということは今までなかった視点かなと思います。また、引きこもり支援も難しいことで、これも一つ大きなテーマかなと思います。それから、高齢者の仕事づくりということで、「支援をする」「手を差し伸べられたくはない」「活躍できるのであれば出て行く」という方も多いですので、そのような方の活躍の場を作るということも非常に大事なことかなと思います。素晴らしい活動をされているということで、ありがとうございました。またこのようなことも計画に活かしていければと思っております。それでは、外も真っ暗になってきましたし、お疲れだとは思いますが、8時位までまだ少し時間がありますので、もしもう一言あればお願いします。

委員

村瀬と申します。社協さんに登録させていただいております、ボランティア団体「ほっとほほえみ」ということで、自殺対策やボランティアをやっております。それと最近転職し、学校の教員もやることになり、現場で子どもたちと接する日々を送っております。その中で、橘田委員さんからありました「福祉と雇用」という言葉にピンときまして、「福祉と教育」もなんとか融合できないものかなと感じました。引きこもりや貧困、生活困窮、孤食、学力低下、障がい、病気、そして行き着くところは自殺に向かってしまうという問題を、実は子どもたちも抱えています。ただ、表面的に出ていないように感じているだけであって、大変だなと実は思っています。今後、将来の子どもたちはどうなっていくのだろうかと思います。先ほど小田委員さんからも家族の危機とありましたが、いろいろ考えてみる

と、家族の危機に行き着くのかなと思います。家族崩壊しているような家庭が多いようにすごく感じます。ですので、確かに高齢者福祉や障がい者福祉など、高齢者世代に対して検討していくことも必要なのですが、子どもたちに対する福祉の視点でも何か考えていけないのかなと思います。具体的に何がいいのかまでは見えていないのですが、例えば特別支援学級にいる子どもたちについて、中学校まではいいのですが、就業についてはどのように動く必要があるのか、川西市に就業できる場所はありません。ですから、そのような子どもたちが将来川西で生きていける、生活していける、そのようなことを議論していくのも1つかなとちょっと感じましたので、一言申し上げたいと思います。

会長

ありがとうございます。貧困状態にある子どもの割合が16%ということで、詳しく見ていくと、就学援助を受けている子どもたちは大阪では25%だそうで、最初聞いたときにびっくりしました。2.5%ならわかるのですが、25%の子どもが就学援助を受けており、生活保護水準とほぼ一緒だということです。その背景には、家庭の崩壊などがある中で、今大きく期待されているのはスクールソーシャルワーカーです。僕も一時、児童相談所に居ながら教育委員会と兼任していたことがあり、教育委員会と福祉の間の壁は分厚いのですが、今はスクールソーシャルワーカーの配置が進んでいます。配置は進んではいますが、スクールソーシャルワーカーがなかなか福祉にいけないようで、福祉のソーシャルワーカーもいるのですが、なかなか教育と上手くいかないこともあります。ただ、上手くいっているところもあり、尼崎では子どもの問題は、青少年関係部署と児童、教育委員会と3つくらいに分かれるなど縦割りの壁があり、子どもの教育と、特に生活困窮の学習支援などでも学校と結びついていないです。そのあたりが大きな問題点ということで、大きくみるとこれも地域福祉の課題であるのご指摘をありがとうございました。他はいかがでしょうか、よろしいでしょうか。大変お疲れのところ、皆さまご苦労さまでございました。今日はこれで審議会を閉会させていただきますが、副会長さんよろしいでしょうか。それでは事務局にお返しいたします。

司会

明石会長どうもありがとうございました。先ほどご質問をお受けいたしました。事務局のつたない回答で申し訳ございませんでした。アンケートの調査項目が前回より少ないことや、「コミュニティ・自治会」の項目がないこと、集計等いろんなご指摘をいただきました。先ほど課長も申しましたが、拙速にアンケートを進めてしまい、十分な検討時間がなく、ご指摘いただいたことを反省しております。どうも申し訳ございませんでした。もう項目は変更できませんので、今後ワークショップなどで市民の声

をお聞きする際に、少しでも補える部分があれば、ご意見をお聞きして、少しでも反映してまいりたいと考えております。五嶋委員からもご指摘がありました、数字だけを解釈するのではなく、分析や、最後の自由意見、生の声もいただいております、それをしっかり見させていただいて、計画に反映していきたいと考えておりますので、よろしく願いいたします。それでは委員の皆さま、長時間に渡りご審議いただき、ありがとうございました。今後とも何回か開催させていただきますので、ご意見等賜りますようよろしくお願いいたしますと思います。それではこれもちまして、第1回社会福祉審議会を終了したいと思います。本日はどうもありがとうございました。